

「臓器移植に関する世論調査」について

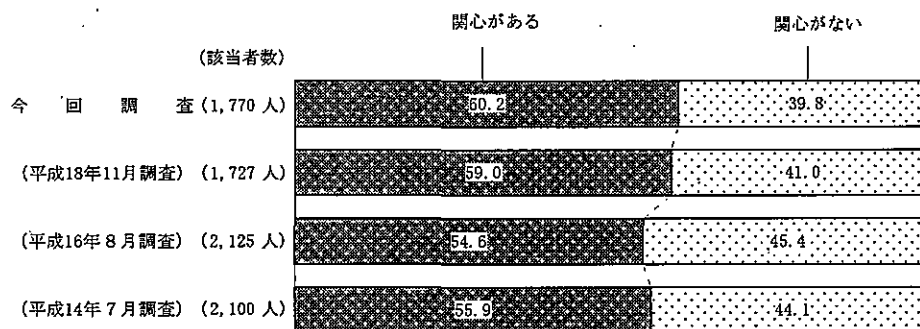
I 調査概要

調査時期：平成20年9月11日～9月21日（調査員による個別面接聴取）
 調査対象：全国20歳以上の者3,000人（有効回収数：1,770人，回収率：59.0%）
 過去実績：H18.11，H16.8，H14.7，H12.5，H10.10

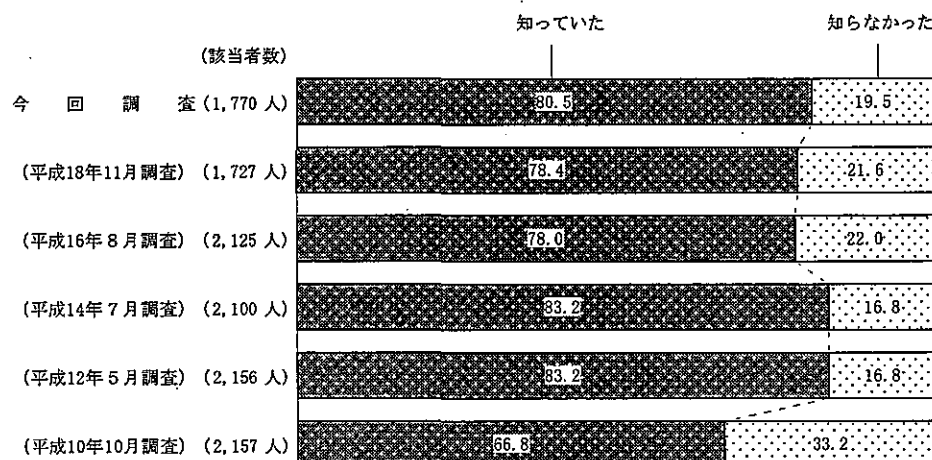
II 主な結果

1 臓器移植法について

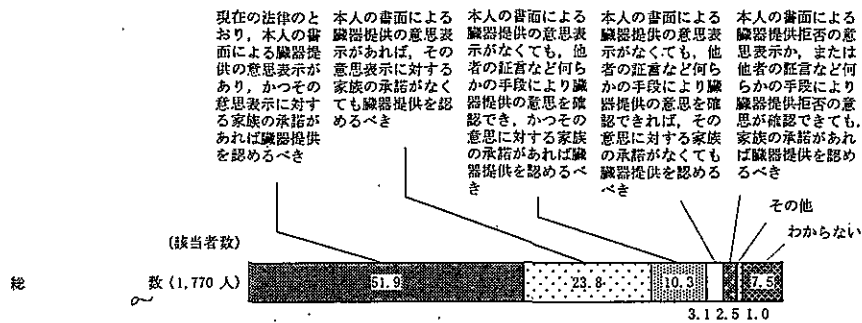
（1）臓器移植に「関心がある」が60%と、調査開始以来最も高い。



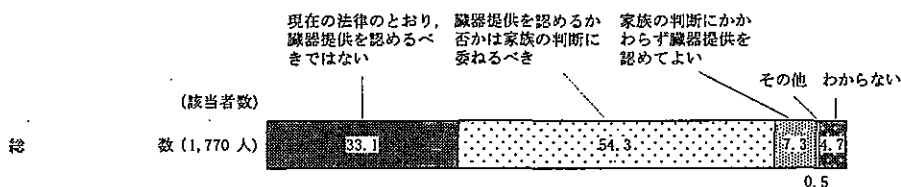
（2）脳死での臓器提供には、生前、本人の意思で書いた書面による意思表示と、その意思表示に対する家族の承諾の両方が必要なことを「知っていた」が81%と、前回からほぼ変わらず。



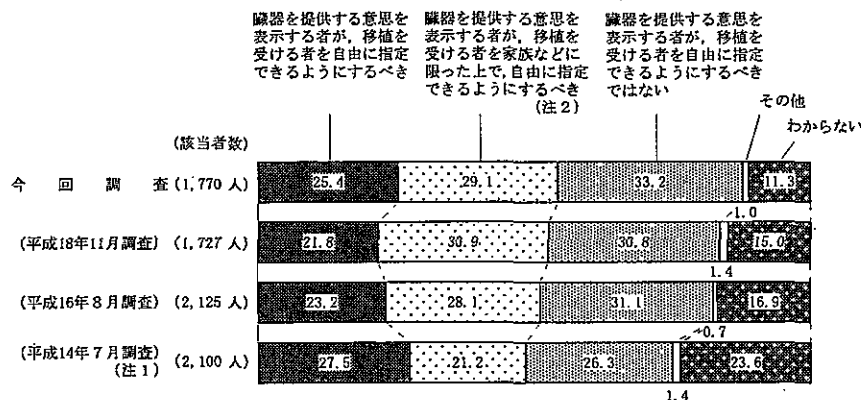
(3) 本人の意思表示がある又は意思を確認できる場合の臓器提供について、「現在の法律のとおり」が 52%。次いで「本人の書面による意思表示があれば家族の承諾がなくても認めるべき」が 24%。



(4) 本人の意思が確認できない場合の臓器提供について、「家族の判断に委ねるべき」が 54%、「現在の法律のとおり」が 33%。



(5) 臓器提供者が移植を受ける者について、「自由に指定できるようにすべきではない」が 33%、「家族などに限った上で自由に指定できるようにすべき」が 29%、「自由に指定できるようにすべき」が 25%。

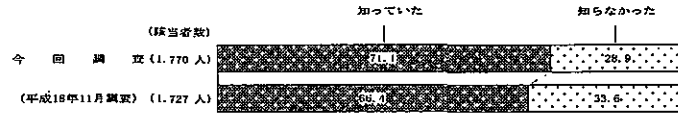


(注1) 平成14年7月調査では、「臓器の移植に関する法律における臓器移植においては、現在臓器移植を受ける患者を公平かつ適正に選択することとされておりますが、これについてどう思いますか。この中から1つお答えください。」と聞いている。

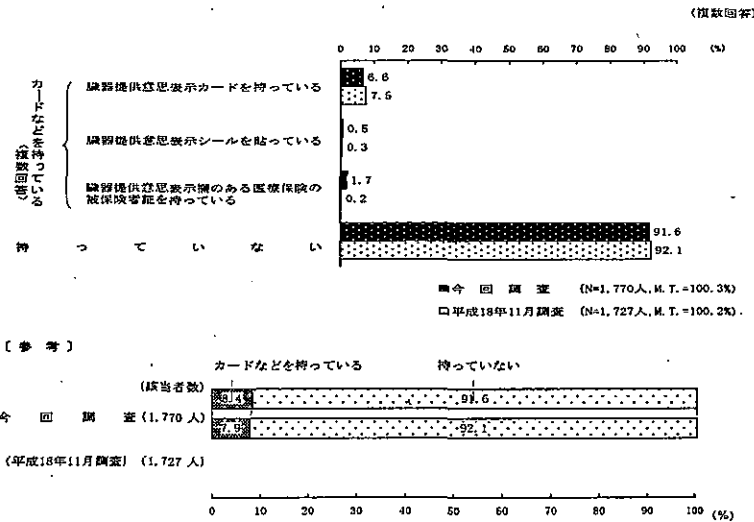
(注2) 平成18年11月調査までは、「臓器を提供する意思表示する者が、移植を受ける者を身近な者などに限った上で、自由に指定できるようにすべき」となっている。

2 臓器提供意思表示カード・シール、医療保険の被保険者証について

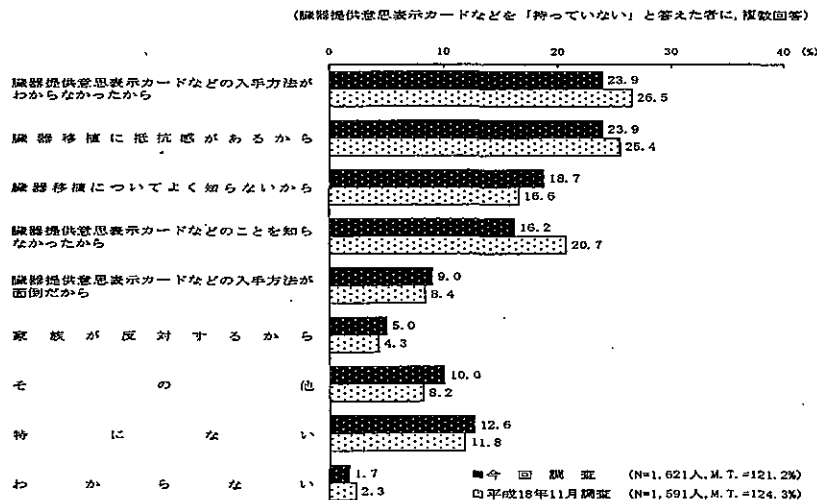
(1) 臓器提供意思表示カードなどのことを「知っていた」は71%と、前回(66%)より増加。



(2) 臓器提供意思表示カードなどを「持っていない」は92%と、前回からほぼ変わらず。

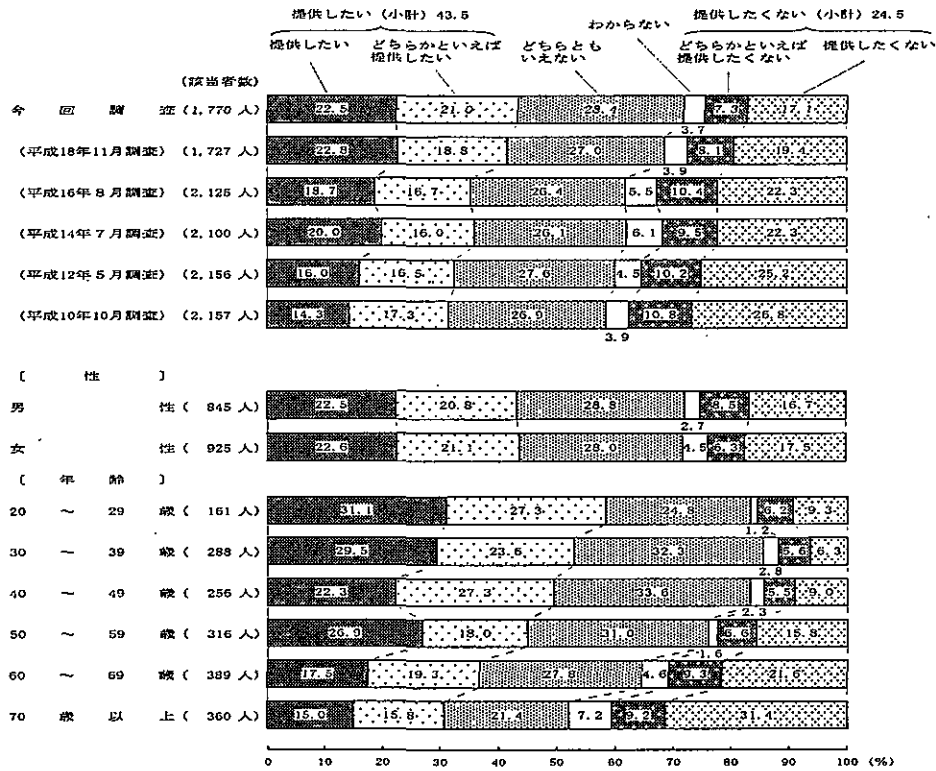


(3) カードなどを持っていない理由は、「入手方法がわからなかったから」(24%)、「臓器移植に抵抗感があるから」(24%)、「臓器移植についてよく知らないから」(19%)など。「カードなどのことを知らなかったから」(16%)が前回(21%)より減少。

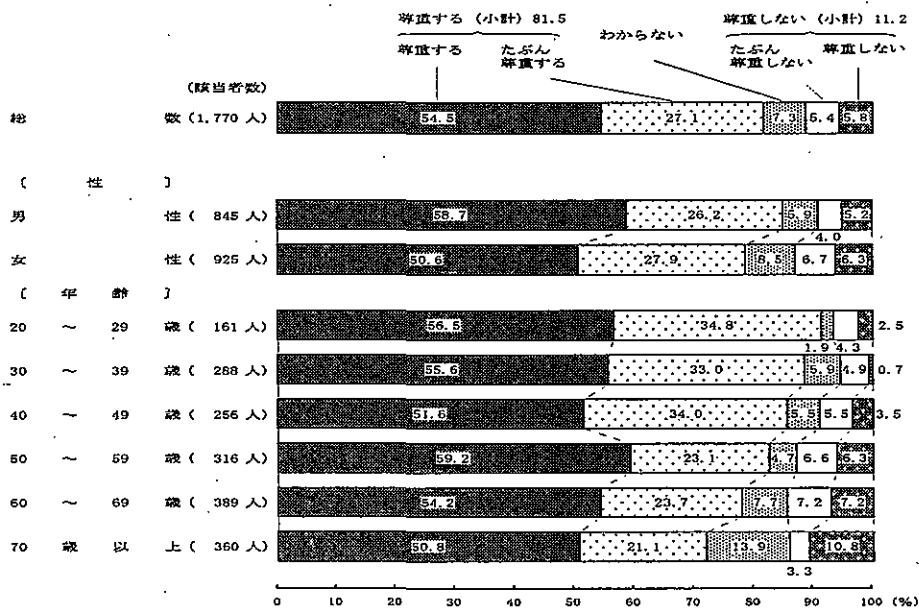


3 臓器移植に対する意識について

(1) 自分が脳死と判定された場合、心臓や肝臓などの臓器を「提供したい」が44%。20歳代では58%に対して、70歳以上では31%と、「提供したくない」(41%)を下回る。

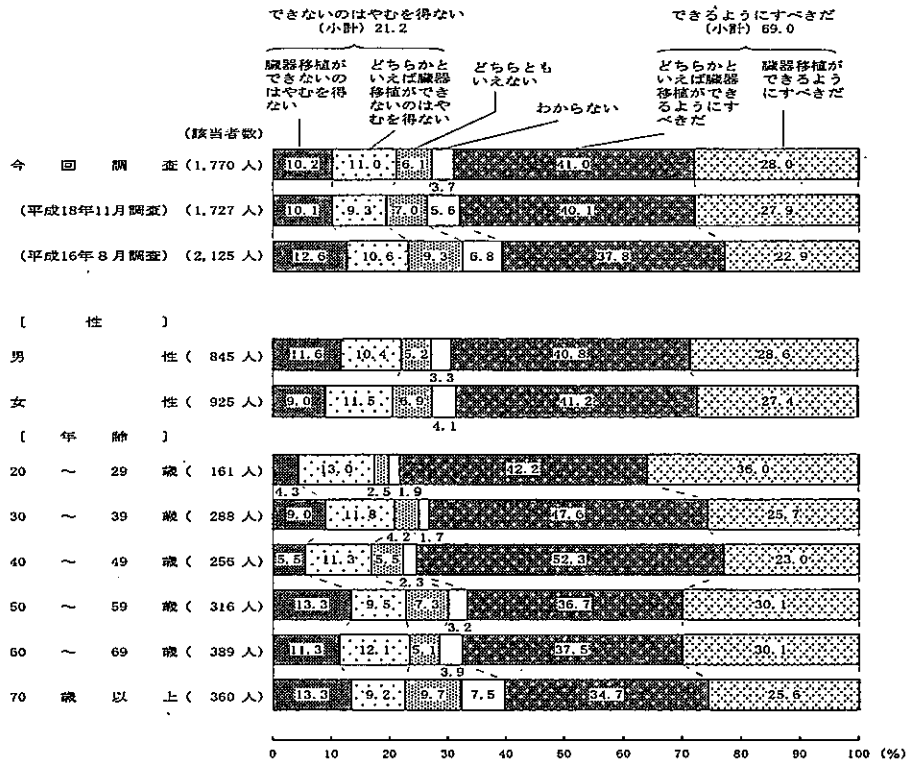


(2) 家族の誰かが脳死と判定され、その人が脳死での臓器提供の意思を書面によって表示していた場合、その意思を「尊重する」が82%。

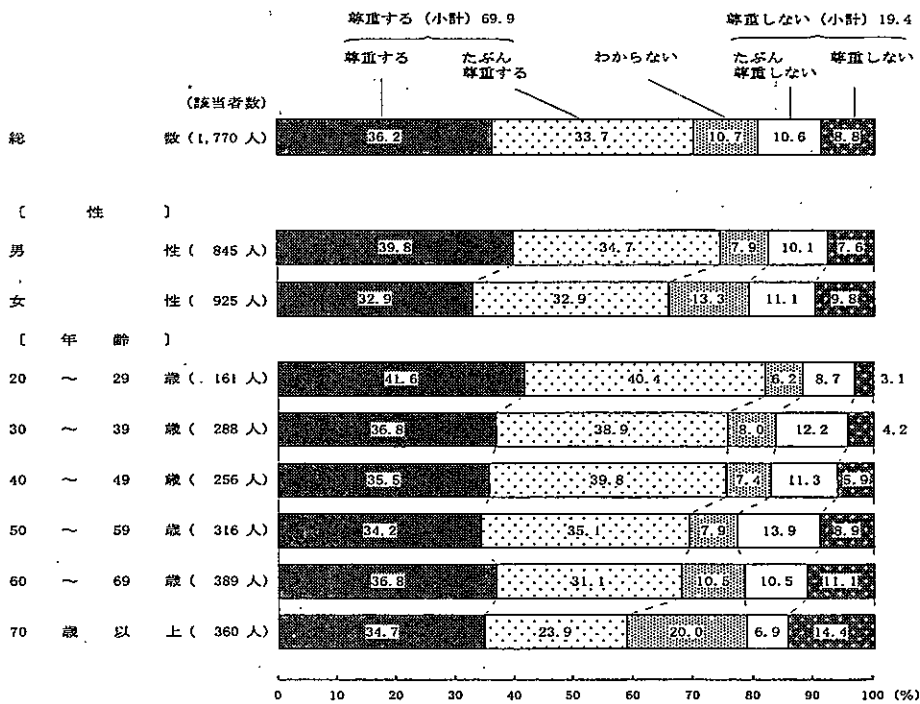


4 15歳未満の者の臓器提供について

(1) 15歳未満の者からの脳死での臓器提供を「できるようにすべきだ」が69%。若い世代ほど、その割合が高い。

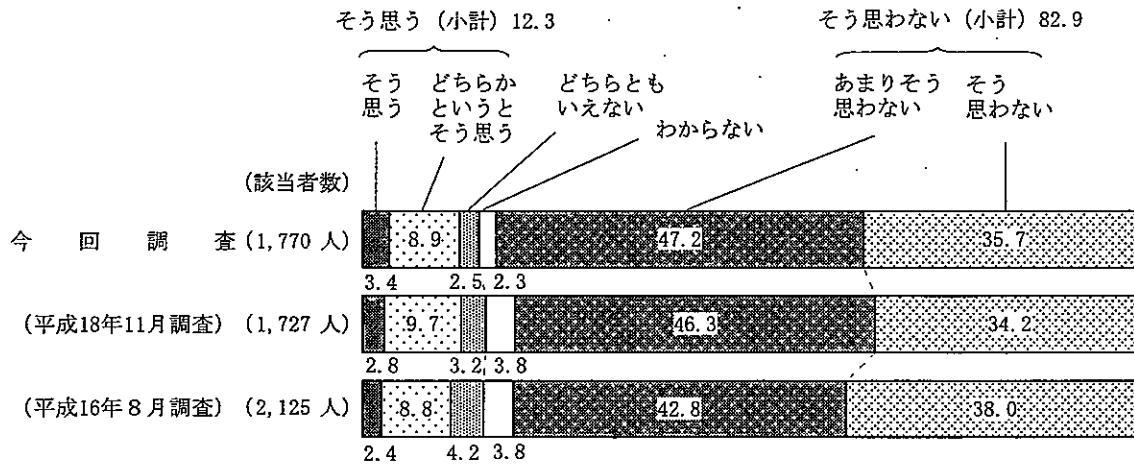


(2) 家族のうち15歳未満の人が脳死と判定され、その人が脳死での臓器提供の意思を表示していた場合、その意思を「尊重する」が70%。



5 臓器移植に関する情報について

(1) 臓器移植について、十分な情報が得られていると「思わない」が83%。



(2) 臓器移植に関してほしい情報は、「移植医療の安全性など」(49%)、「費用など」(46%)、「実施状況」(40%)など。

